

## 式辞(3学期始業式)

おはようございます。2024年早々からこれまでにない大きな地震が起こり、大変な思いをし、不自由な生徒生活を今も続けていることと、思います。皆さんの頑張りに敬意を表します。

地震直後から生徒の皆さんや先生方の安否確認を行ないましたが、なかなか思うように進まず、全員の生存が確認できたのは3日経った1月4日でした。最後の一人の安否確認ができたと聞いたときは、安堵したのと同時に、どっと疲れが出ました。生徒・職員の約350名が多少の怪我はありましたが、全員生きていたことは奇跡に近いことだと思います。思い起こせば、10月10日の外部識者を招いての防災訓練では、皆さんが私語をせずに真摯に取り組んでいたことが、今回の奇跡につながったと思っています。地震の揺れと同時にとっさに身を守る姿勢を取ること、大津波警報が出たら高台に逃げること等、しっかりできていました。

さて、人間には、いろいろな場面で、根拠なく「自分は大丈夫！」と考える習性があります。このことを心理学用語で「正常性バイアス」といいます。これは誰もが持っています。なぜ、そんな習性があるかといえますと、何か起こる度に防御反応をしていると精神的に疲れてしまいますので、そのようなストレスを回避するために自然と脳が働き、「大丈夫！大丈夫！」と自分に言い聞かせ、心の平安を守る作用が備わっているからです。試験前や試合前の緊張した状態で、「大丈夫」と自分に言い聞かせることは、ごく自然なことです。

一方、自然災害や火事・事故・事件などといった、自分にとって何らかの被害が予想される状況下にあっても、正常性バイア

スがかかってしまい、危険な状況を普段の日常生活の延長上として捉え、都合の悪い情報を無視したり、「自分は大丈夫」・「まだ大丈夫」などと過小評価したりすることで、身に危険が及んでしまうことがあります。そもそも、バイアスとは「ありえない」という先入観や偏見という意味です。

今回もそうであったように、テレビで見るような大災害や大事件が、自分の身の回りで起こる可能性は年々高まってきています。身近にそんなことが起こったとき、自分を落ち着かせるために根拠なく「自分は大丈夫！」と言い聞かせることはあり得ますし、そうして下さい。しかし落ち着いた後、次にどうすれば危機から逃れられるのか、あるいは、被害を最小限に抑えることができるのかを判断し、直ぐに行動を起こすことが重要です。今回の地震でも揺れ初めで倒壊した家はそんなに多くありません。30秒、1分と揺れている間に倒壊しています。ですので、揺れ初めで「自分は大丈夫」と、言い聞かせ、次の2, 30秒の間に部屋の隅っこや玄関など、隙間のできる可能性のあるところへ移動することが肝要です。大概、災害に巻き込まれる人は、自分は大丈夫と言い聞かせるだけで、そのまま行動を起こさずに居座ったがために、または対策を施せなかったために、巻き込まれています。だいたい、非常時の大丈夫は、希望的観測に過ぎないと思った方が良いでしょう。落ち着いた後は直ぐに行動に移して下さい。

今後、地震に対しては皆さんはそこそこ対応できると思いますが、豪雨災害や暗がりの一人歩きなどでも、正常性バイアスの特性を理解した上で、危機管理意識を忘れないで下さい。そうすれば、もし万が一、危機が身近に起こっても直ぐに正しい行動に移れると思います。例えば、豪雨災害関連の特別警報が出

たときは大津波警報と同程度の対応をしたり、帰宅などの際に暗がりでは待ち合わせずに、明るいところや人通りの多いところで待ち合わせたりしてください。事故が起こってからでは遅いのですので、是非とも、面倒がらずに、こまめに気をつけて下さい。皆さんが今後もそのようなことに巻き込まれないよう、願っています。

以上、早く元通りの生活に戻れることを願い、また、皆さんの健康と安全、充実した学校生活、3年生全員の満足のいく進路決定を祈念し、3学期始業式の式辞といたします。

令和6年2月13日

石川県立飯田高等学校長 角 秀明

皆さん、ともに頑張りましょう！